

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	エチュード		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職を多く配置しているため、事業所全体で専門的な支援を行うことができる	職員全体での意見交換を定期的に行い、各職員の支援内容を精査しながら良いものは全体に昇華させ、全体的な支援力の向上に努めている。	事業所内・外での研修を今よりも取り入れ、専門的な支援スキルを身に付ける機会を増やしていく。
2	課外活動等を通じた地域社会との繋がりや行動について学べる機会を作っている	社会生活へ馴染みやすくなるように機会を設けている。子どもたちで考え行動する機会を大切に、こちらからは出来る限り助けすぎない工夫をしている。	なかなか自分から行動できない子どもたちに自信がもっと着くように普段から自己肯定感が高まる関わりをし、外に出た際に実践できるようにアシストしていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応や安全確保についての取り組みについて保護者の方へ情報がしっかりと伝わっていないため、周知をしていく必要がある。	災害時、緊急時対応マニュアルは整備されているが、保護者の方へしっかりと情報が伝わっていないことが明らかになった。また、避難訓練等も利用児童を交えて行っているが、周知不足があり、全体には伝わっていないことが分かった。	保護者の方へ個別で周知を行っていく。また、SNSやICTも活用しながら全体周知ができるよう取り組んでいく。
2	地域との交流等についての取り組みについて保護者の方へ情報がしっかりと伝わっていないため、周知をしていく必要がある。父母会等の保護者様間の情報交換、繋がりを作る機会がまだ少なく増やす必要があるかも知れない。	保護者の方へしっかりと情報が伝わっていないことが明らかになった。そもそもの機会の数も少ない可能性がある。	保護者の方へ個別で周知を行っていく。また、SNSやICTも活用しながら全体周知ができるよう取り組んでいく。機会の数が適正か意見を聞きながら再考する。
3			